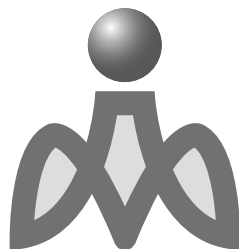


山 梨 県

商工会地区

中小企業景況調査報告書

〔 平成24年 7 月～ 9 月実績 〕
〔 平成24年10月～12月予測 〕



未来に敏感、人が中心

山梨県商工会連合会

目 次

I 調 査 要 領	1
II 景 況	
1. 産業全体の業況概観	2
2. 製造業の動向	
(1) 景 況 概 観	3
(2) 主な項目でみる業況	3
3. 建設業の動向	
(1) 景 況 概 観	6
(2) 主な項目でみる業況	6
4. 小売業の動向	
(1) 景 況 概 観	9
(2) 主な項目でみる業況	9
5. サービス業の動向	
(1) 景 況 概 観	12
(2) 主な項目でみる業況	12

【Ⅰ】 調 査 要 領

1. 調 査 対 象

- (1) 対 象 地 区 11商工会
(2) 対 象 企 業 数 165企業
(3) 回 答 企 業 数 165企業

2. 調査対象期間

第2四半期 平成24年7月～9月期
調 査 時 点 平成24年9月1日

3. 調 査 方 法

県下の調査対象企業を11商工会の経営指導員が訪問面接調査

4. 調査対象企業（モニター企業）の商工会別、業種内訳

商工会名	製 造 業	建 設 業	小 売 業	サービス業	計
都 留 市	3	2	4	6	15
韮 崎 市	3	3	4	5	15
南アルプス市	3	2	4	6	15
北 杜 市	4	2	5	4	15
笛 吹 市	3	2	4	6	15
上 野 原 市	3	3	4	5	15
甲 州 市	3	3	4	5	15
中 央 市	4	2	6	3	15
身 延 町	4	2	5	4	15
富 士 川 町	3	2	4	6	15
河 口 湖	4	2	6	3	15
計	37	25	50	53	165

5. そ の 他

①本報告書のD Iとは、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目について前年同期と比較して、増加（上昇、好転、長期化等）とする企業割合と、逆に減少（低下、悪化、短期化等）とする企業割合の差を示すものである。

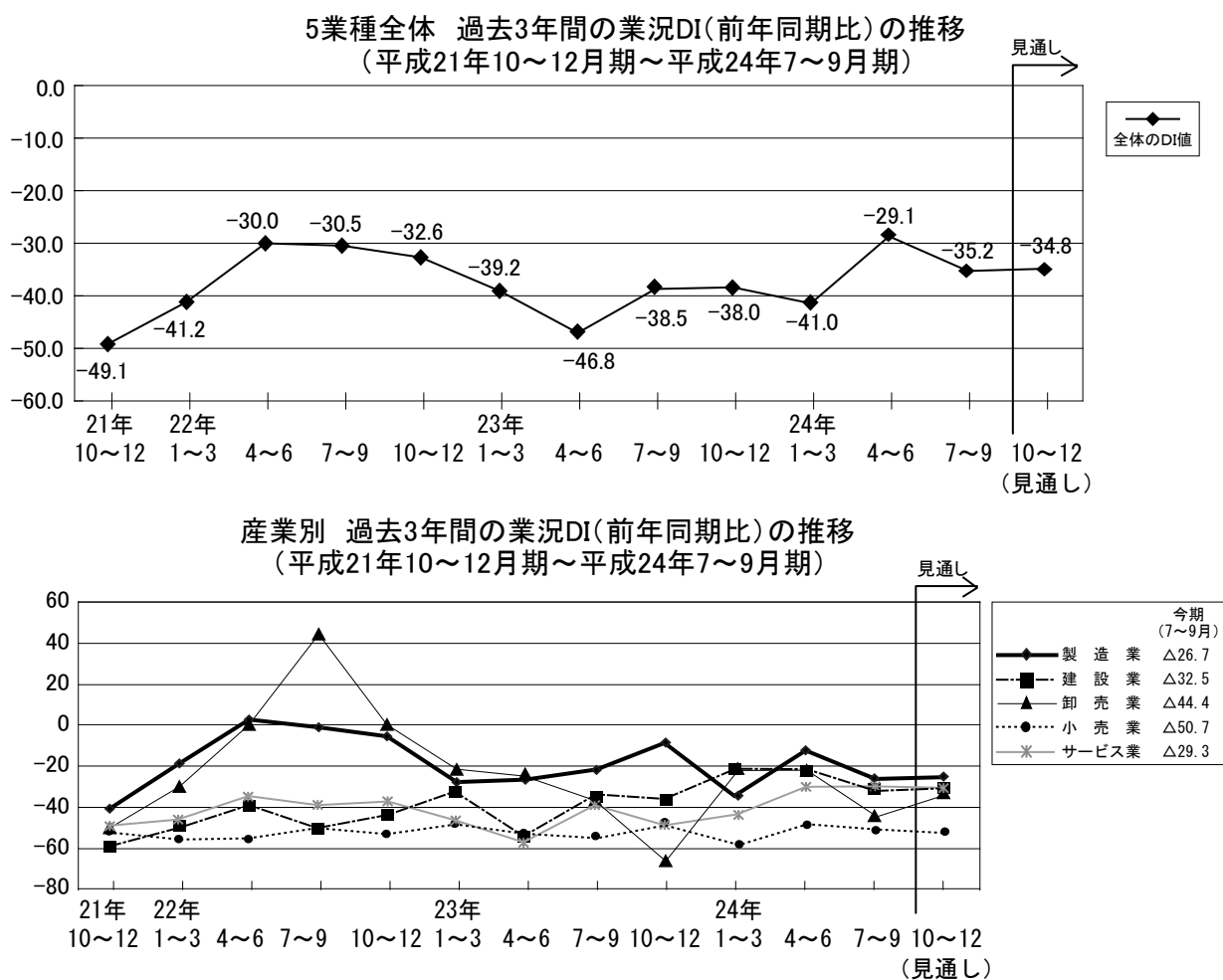
②次頁【Ⅱ】1. 産業全体の業況概観・・・については、本県商工会地区の企業ばかりでなく本県全体の被調査企業（卸売業を含む）284サンプルによるものである。

【Ⅱ】 景 況

1. 産業全体の業況概観

本県5業種の業況概観について、調査対象284企業のデータに基づいて産業別の業況DIを示す。まず下記の上図は、過去3年間の5業種全体の業況判断DIを表したものである。業況DIは前期かなりの改善をみせマイナス29.1となったが、今期はマイナス35.2と悪化した。来期の見通しは今期とあまり変わらないマイナス34.8である。

下図は今期の景況感を前年同期と比較して、過去3年間の推移を本県製造業、建設業、卸売業、小売業、サービス業5業種別に示したものである。製造業は、前期マイナス12.2であったが、今期は14.5ポイント悪化してマイナス26.7である。来期の見通しについては、ほぼ同様のマイナス25.0である。建設業は、前期マイナス23.7から約9ポイント悪化のマイナス32.5であった。来期の見通しについては、僅かな改善のマイナス30.8である。卸売業は、前期マイナス22.2から大きく落ち込んでマイナス44.4と厳しい状況である。来期の見通しについては、約11ポイント好転しマイナス33.3である。小売業は、前期が前々期より10ポイント近くの改善のマイナス48.7であったが、今期は少々ダウンしマイナス50.7であった。来期の見通しは、マイナス52.1と、5業種のうち最も厳しい状況が続いている。最後にサービス業であるが、前期マイナス30.1とほとんど変わらないマイナス29.3である。来期の見通しについても、横ばいのマイナス30.5である。今期は、サービス業が横ばいで推移したのを除いて、他の4業種は軒並みの悪化であった。



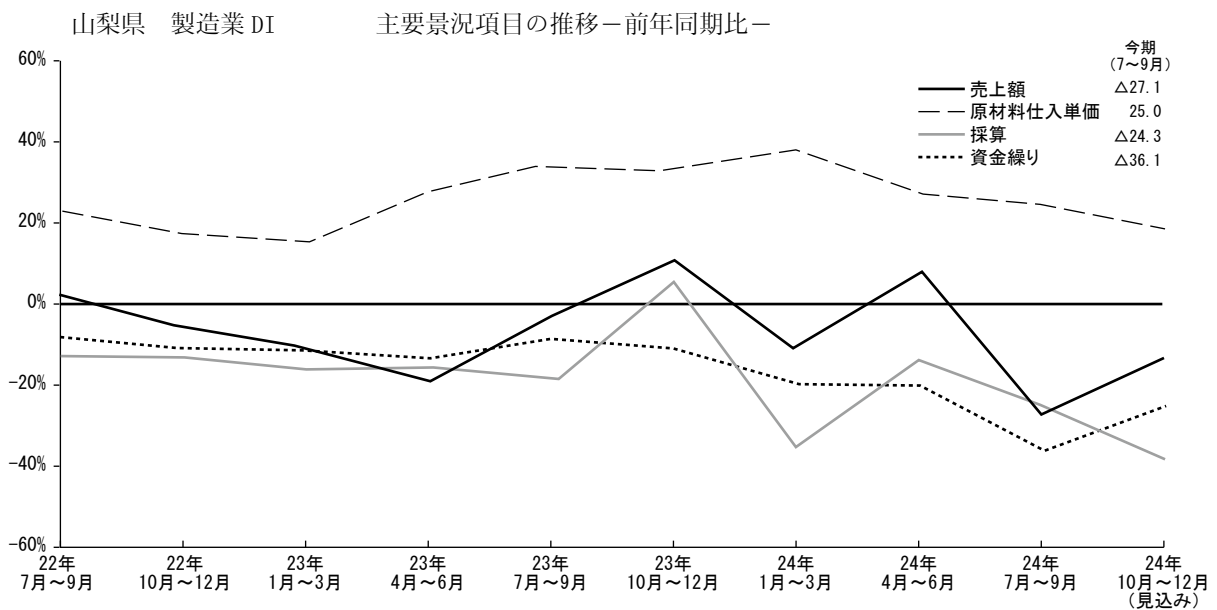
【注記】 上記、産業全体の業況概観については、商工会調査対象165企業に甲府・富士吉田地域からの119企業を含めた284サンプルを使用。卸売業については、中小企業基盤整備機構調査によるデータのみを使用。次ページからの産業別景況DIについては、商工会地区企業のサンプル分析に基づくものである。

2. 製造業の動向

1. 景況概観

下図は、製造業の過去2年間の「売上額」「原材料仕入単価」「採算」「資金繰り」の推移状況を表わしたものである。売上額D Iについては、前期はマイナスから大きく改善でプラス8.2となったが、今期は前々期以上に悪いマイナス27.1であった。来期の見通しについては、マイナス13.5と回復の期待感が大きいようだ。

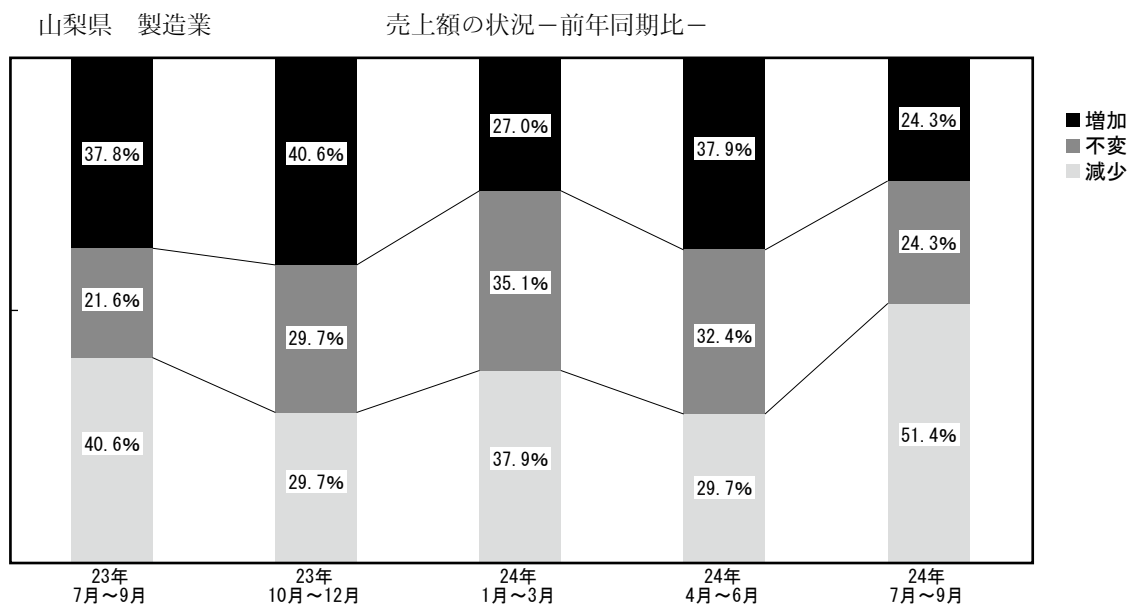
原料仕入単価D Iは、前期28.1から3ポイントほど低下しての25.0である。来期の見通しについては、さらに好転し18.8である。採算D Iは、前期大きく改善しマイナス13.5となったが、再びの悪化のマイナス24.3である。来期の見通しについては、さらに13.5ポイント悪化しマイナス37.8と厳しい状況が続くそう。資金繰りD Iについても、前期マイナス19.5から16.6ポイント悪化してマイナス36.1であった。来期の見通しは、10ポイント以上の改善期待のマイナス25.0である。



2. 主な項目で見る業況

(1) 売上額

下図は、過去1年間の「売上額」の前年同期比で見た増減状況の推移を示したものである。ここでは、前記した当期の売上額D I マイナス27.1となった回答の中身を見てみよう。「増加」と答えた企業の割合は前期14社の37.9%から9社に減り24.3%であった。「不変」は前期12社の32.4%から「増加」と同じく9社、「減少」は前期11社の29.7%から8社増えて51.4%であった。

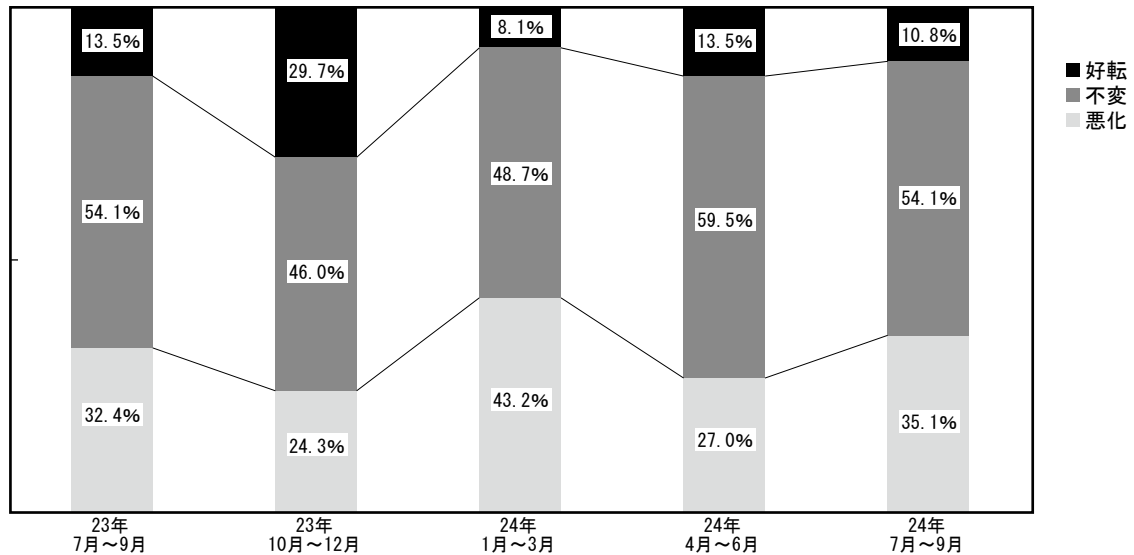


(2) 採 算

本調査では、経常利益を「採算」として尋ねている。今期の採算D I マイナス 24.3 についても、その詳細を見てみよう。「好転」が前期 5 社の 13.5% から 1 社減り 10.8% に、「不変」は前期 22 社の 59.5% から 2 社減の 54.1%、「悪化」は前期 10 社の 27.0% から 13 社に増え 35.1% となった。

山梨県 製造業

採算の状況－前年同期比－

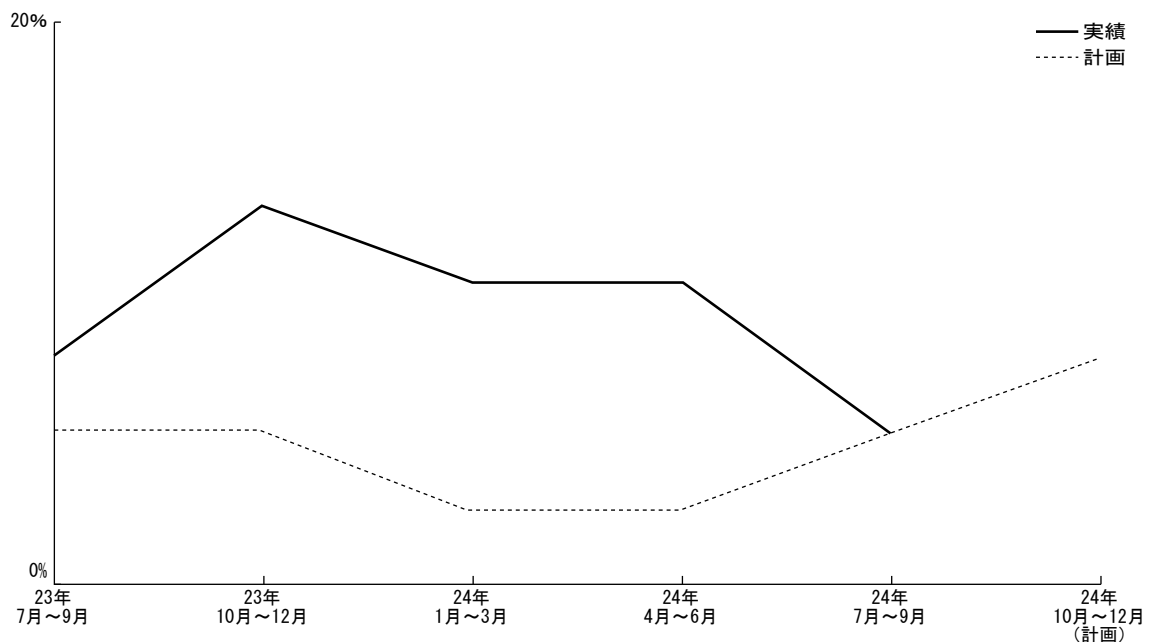


(3) 設備投資

下図は、過去 1 年間余りの「設備投資」の状況を示したものである。前期には設備投資を行った企業は 4 社であったが、今期は 2 社に減った。その設備投資内容は、「土地」「生産設備」「OA 機器」「その他」がそれぞれ 1 件であった。今期の実績は、前期の調査における来期の計画とおりであった。今期における来期の計画については 3 社で、「生産設備」と「OA 機器」が各 2 件、「工場建物」と「車両・運搬具」が 1 件ずつである。

山梨県 製造業

設備投資の状況

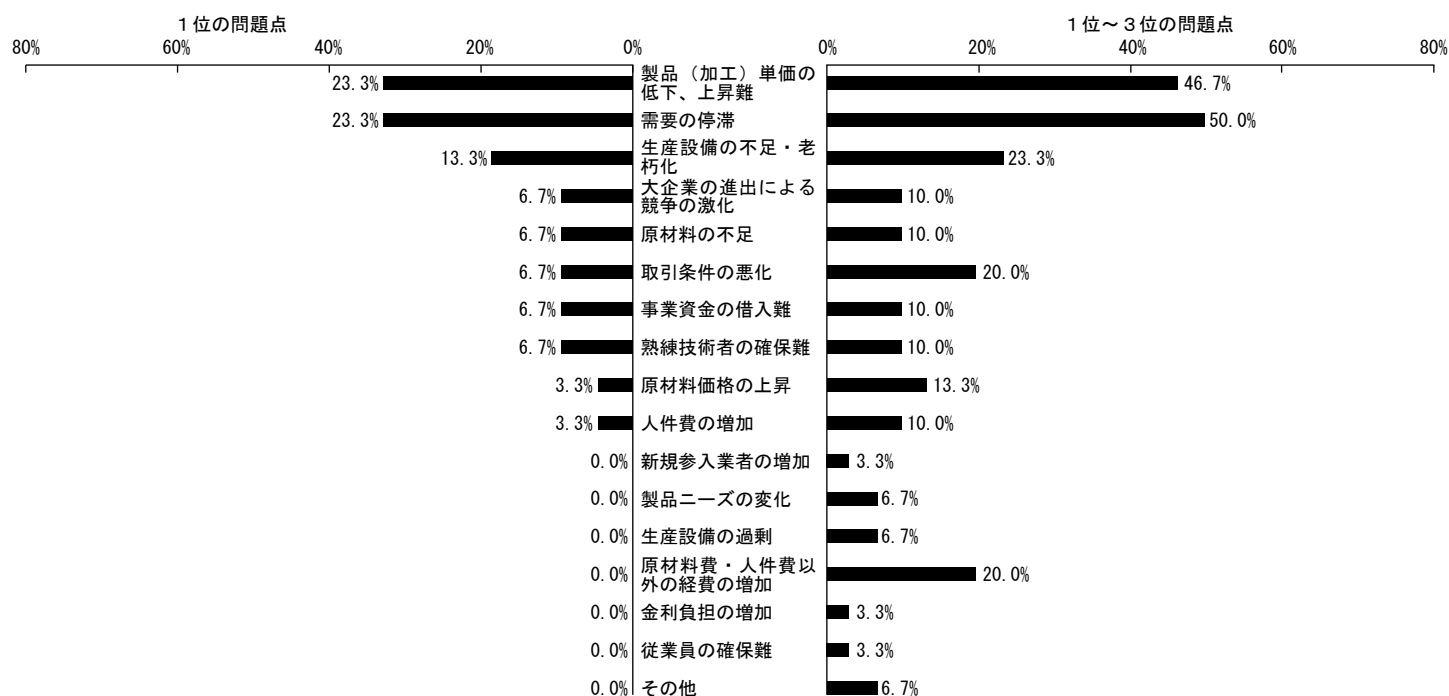


(4) 経営上の問題点

製造業における「経営上の問題点」は、下図のとおりである。まず最優先事項の問題点である「一位」に挙げたものから見ていくと、前期最も多かった「製品（加工）単価の低下、上昇難」が今期もトップで、1社減ったが7社の23.3%であった。「需要の停滞」も前期より2社増の7社でトップを分け合った。続いて「生産設備の不足・老朽化」で、4社が答え13.3%である。その他の答えは、2社以下が回答するに止まった。

次に「一位～三位」を見ると最も多い答えは、相変わらず「需要の停滞」で前期より1社増えて半数の回答の50.0%であった。2番目は、「製品（加工）単価の低下、上昇難」で、前期と同じ14社が挙げ46.7%であった。続いて「生産設備の不足・老朽化」を前期と同様の7社が挙げ23.3%、「材料費・人件費以外の経費の増加」と「取引条件の悪化」が各6社の20.0%となっている。前期の回答とほとんど変化がなかった。

山梨県 製造業 経営上の問題点の状況（一位と一位～三位）



(5) 回答企業の内訳

業種別

業 種	企業数	構成比(%)
食料品製造業	8	21.6
印刷・同関連業	3	8.1
化学工業	1	2.7
プラスチック製品製造業	5	13.5
窯業・土石製品製造業	2	5.4
金属製品製造業	1	2.7
一般機械器具製造業	7	18.9
電気機械器具製造業	2	5.4
輸送用機械器具製造業	3	8.1
その他製造業	5	13.5
合 計	37	100.0

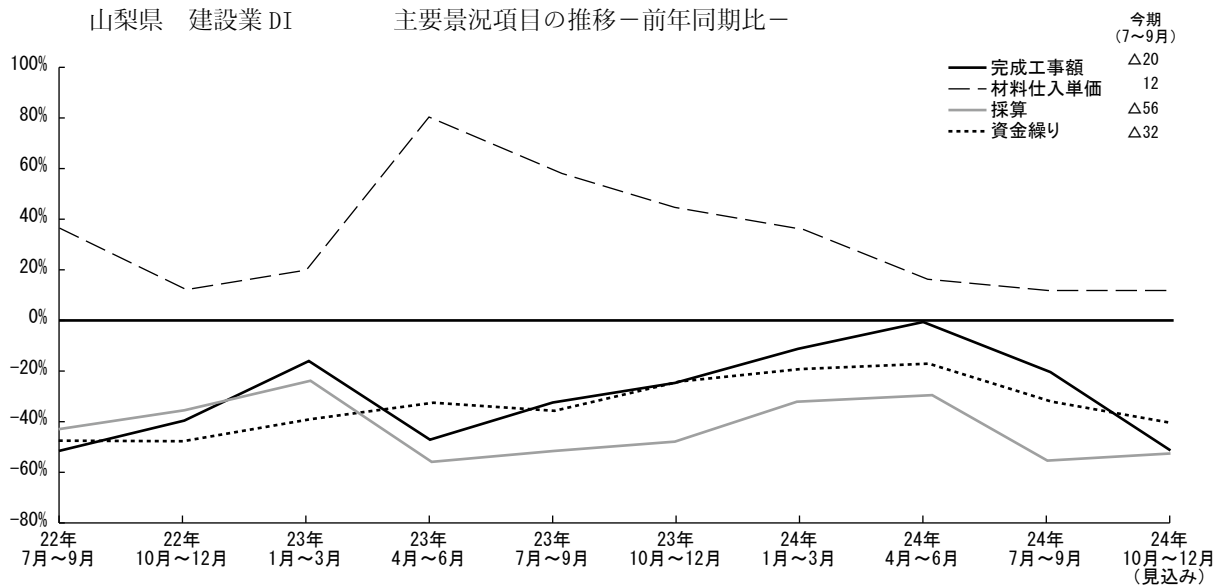
従業員規模別

従業員数	雇用形態		臨時等含む	
	常 雇	い	企業数	構成比(%)
2人以下	18	48.6	13	35.1
3人～5人以下	9	24.3	10	27.0
6人～10人以下	4	10.8	6	16.2
11人～20人以下	3	8.1	2	5.4
21人～50人以下	3	8.1	6	16.2
合 計	37	100.0	37	100.0

3. 建設業の動向

1. 景況概観

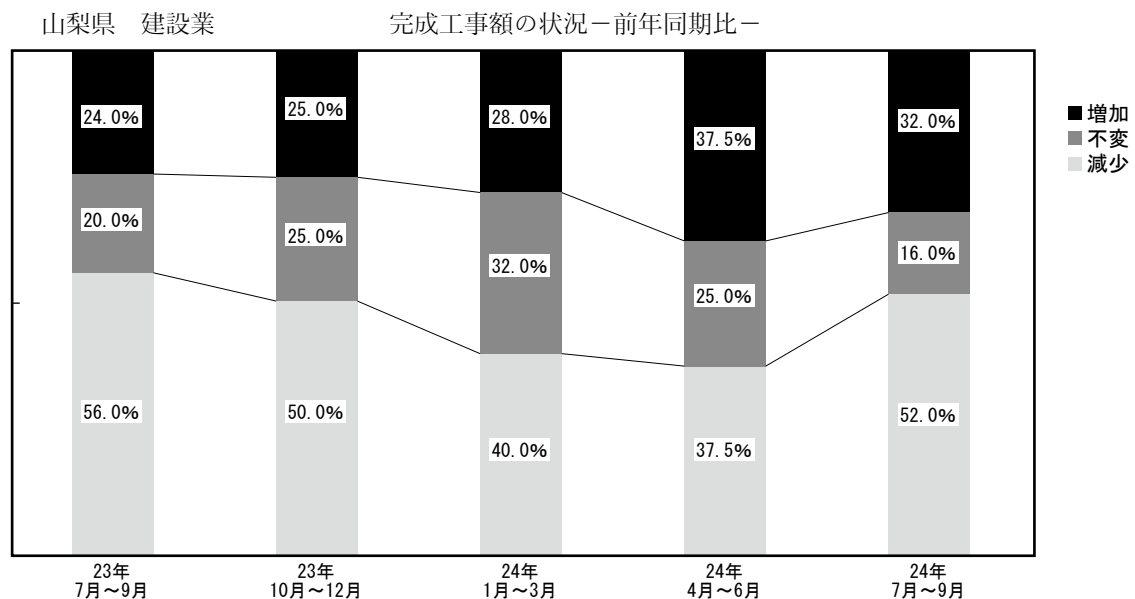
完成工事額D I は、前期イーブンの0.0であったが今期はマイナス20.0に悪化してしまった。しかし、前期における来期の見通しほどに悪化しなかったのが救いである。今期における来期の見通しについては、さらに大きく落ち込んでマイナス52.0である。急激な悪化予測で心配される。材料仕入単価D I は、前期16.6から幾らかの改善の12.0であった。来期の見通しは、今期と変わらない結果である。採算D I は、前期マイナス29.2からマイナス56.0と完成工事額D I に連動して悪化した。来期の見通しについては、ほぼ横ばいのマイナス52.0である。よって、資金繰りD I も前期マイナス16.7からマイナス32.0と悪化した。来期の見通しは、さらに悪化を予測してのマイナス40.0である。



2. 主な項目で見る業況

(1) 完成工事額

過去1年余の「完成工事額」の状況の推移を表わしたものが下図である。今期完成工事額D I のマイナス20.0の内訳をみると、「増加」が前期9社の37.5%から1社減り32.0%になった。「不変」も前期6社の25.0%から2社減の16.0%、「減少」は前期9社の37.5%から13社に増え52.0%であった。ちなみに、今期の受注（新規契約工事）額についてみると、前期D I はマイナス12.5であったがマイナス28.0と悪化した。来期の見通しについては、一段の悪化のマイナス48.0である。

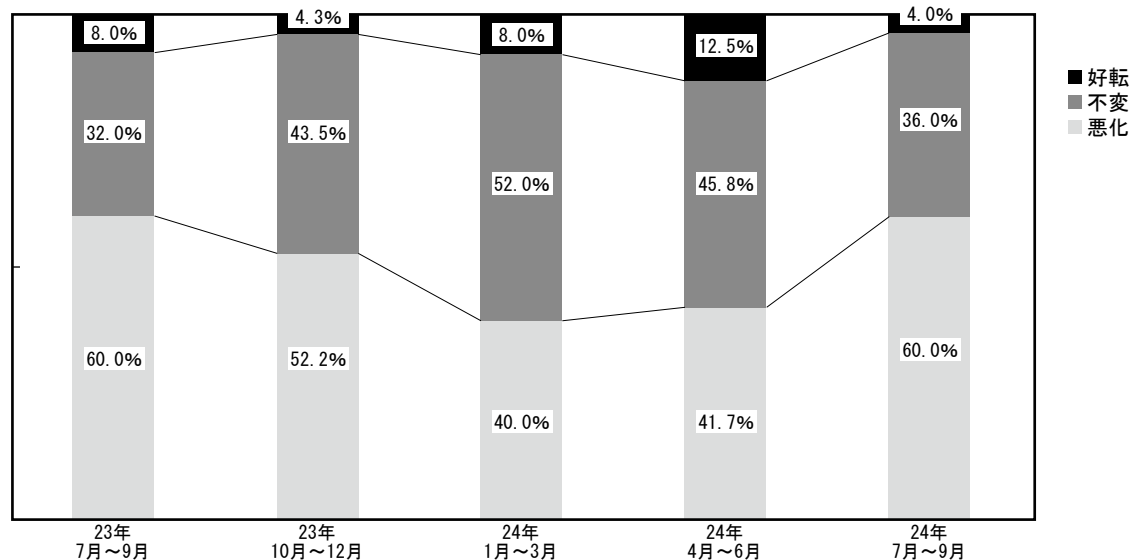


(2) 採 算

「採算」状況の詳細を見ると下図のようになる。今期採算D I マイナス 56.0 の内訳は、「好転」が前期 3 社の 12.5% から 1 社のみに減り 4.0%、「不変」も 11 社の 45.8% から 2 社減の 36.0% に、「悪化」は前期 10 社の 41.7% から 5 社増えて 60.0% になった。

山梨県 建設業

採算の状況－前年同期比－

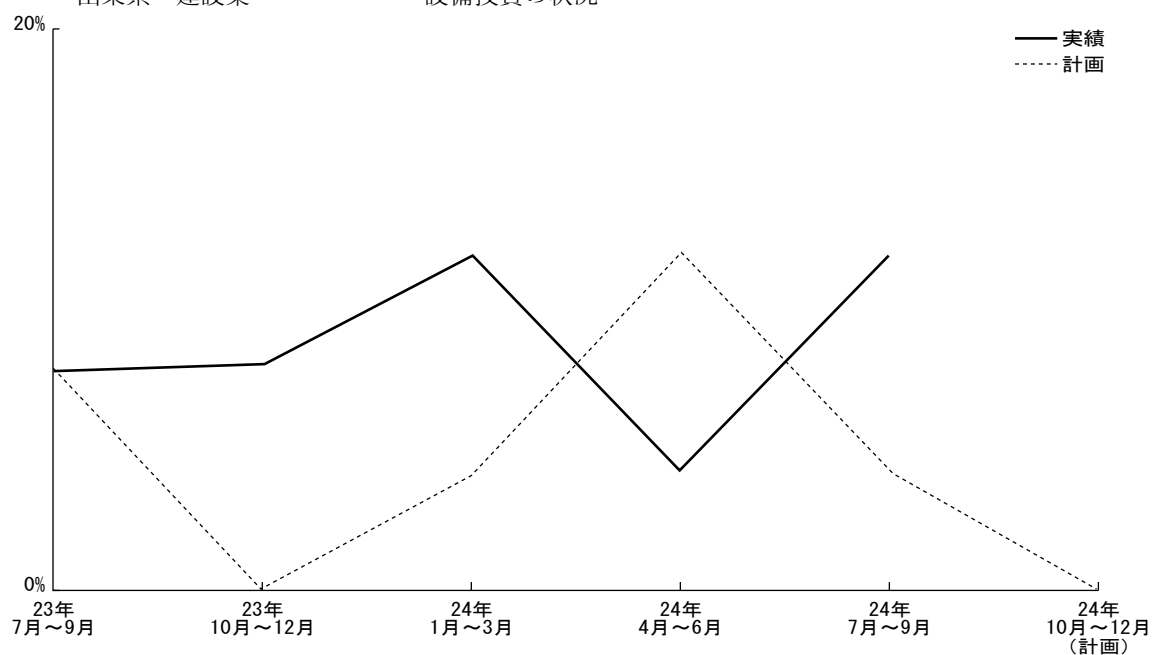


(3) 設備投資

設備投資を実施した企業は、前期 1 社のみであったが 3 社に増えた。今期の内訳は、「車両運搬具」「OA 機器」「その他」が各 1 件である。来期の計画については、投資企業ゼロというショックな回答で、今後の業界の沈滞状況が懸念される。

山梨県 建設業

設備投資の状況

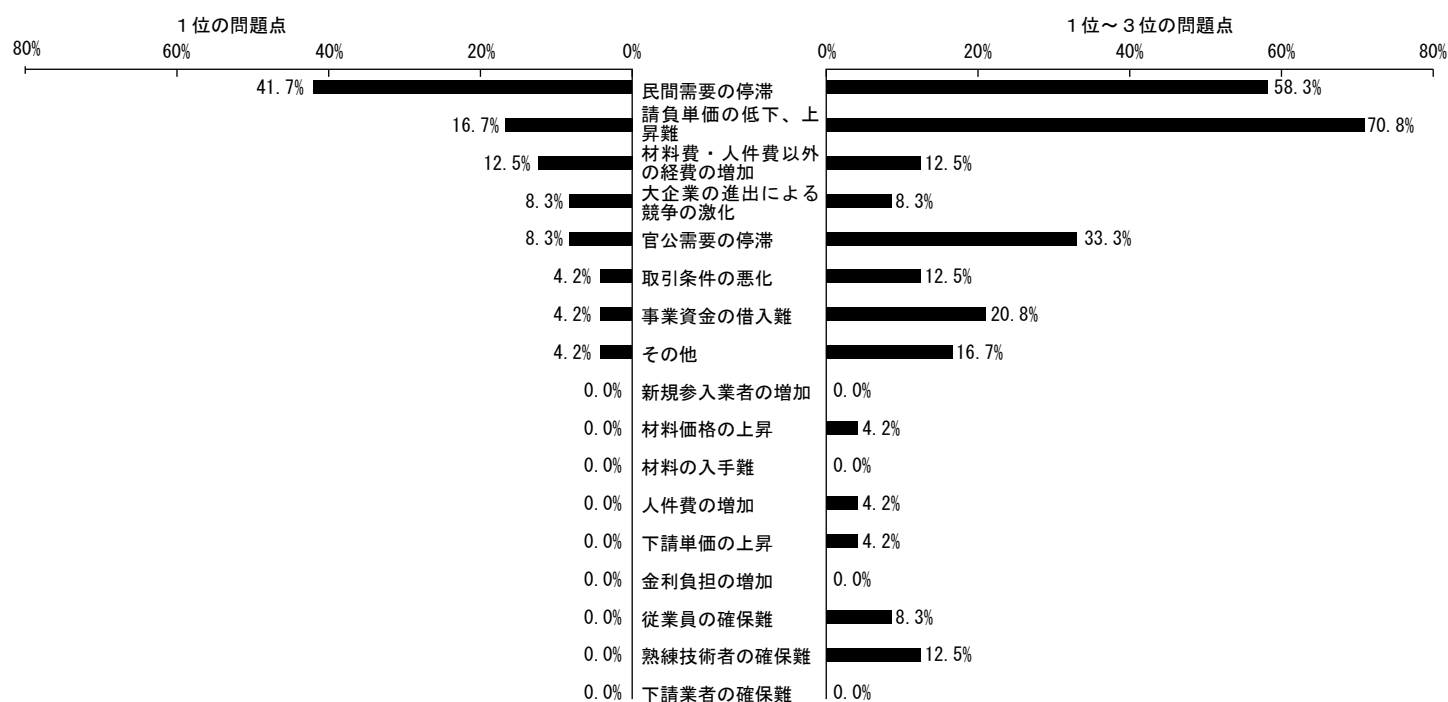


(4) 経営上の問題点

まず、「一位」に挙げたものから見ていくと、最も多い答えは今期も相変わらず「民間需要の停滞」で、前期9社の37.5%から1社増の41.7%であった。2期続けて増加傾向である。前期に「民間需要の停滞」とともにトップだった「請負単価の低下、上昇難」が4社までに減り16.7%の2番目で、「材料費・人件費以外の経費の増加」が3社の12.5%と続く。その他「大企業の進出による競争の激化」等の答えは、2社以下が挙げるのに止まった。今期の「一位」に見られる回答の特徴は、「民間需要の停滞」が断トツの問題点となった。

次に「一～三位」をみると「一位」の回答とは違い、前期に引き続いて「請負単価の低下、上昇難」を17社が挙げ、全体の7割に達しトップである。続いて多かった答えは、前期と同様で「民間需要の停滞」で13社の54.2%から1社増の58.3%である。3番目は、前期と同じ「官公需要の停滞」で前期7社の29.2%から、こちらも1社増えて33.3%となった。さらに続いては「事業資金の借入難」で、前期6社25.0%から1社減の20.8%という結果になった。その他の答えは、4社以下が答えるに止まっている。「一～三位」の回答は、前期と全く変わらない順位であった。

山梨県 建設業 経営上の問題点の状況（一位と一位～三位）



(5) 回答企業の内訳

業種別

業 種	企業数	構成比(%)
総合工事業	17	68.0
職別工事業	5	20.0
設備工事業	3	12.0
合 計	25	100.0

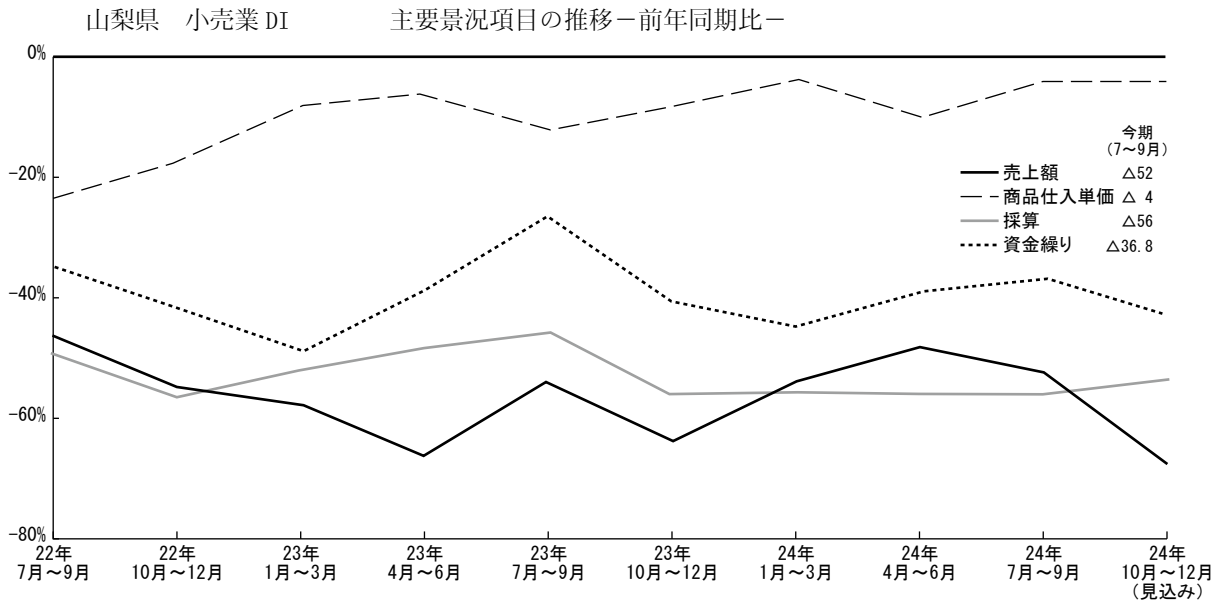
従業員規模別

従業員数	雇 用 形 態		常 雇 い		臨時等含む	
			企業数	構成比(%)	企業数	構成比(%)
2人以下			8	32.0	6	24.0
3人～5人以下			7	28.0	8	32.0
6人～10人以下			3	12.0	4	16.0
11人～20人以下			5	20.0	5	20.0
21人～50人以下			2	8.0	2	8.0
合 計			25	100.0	25	100.0

4. 小 売 業 の 動 向

1. 景 況 概 観

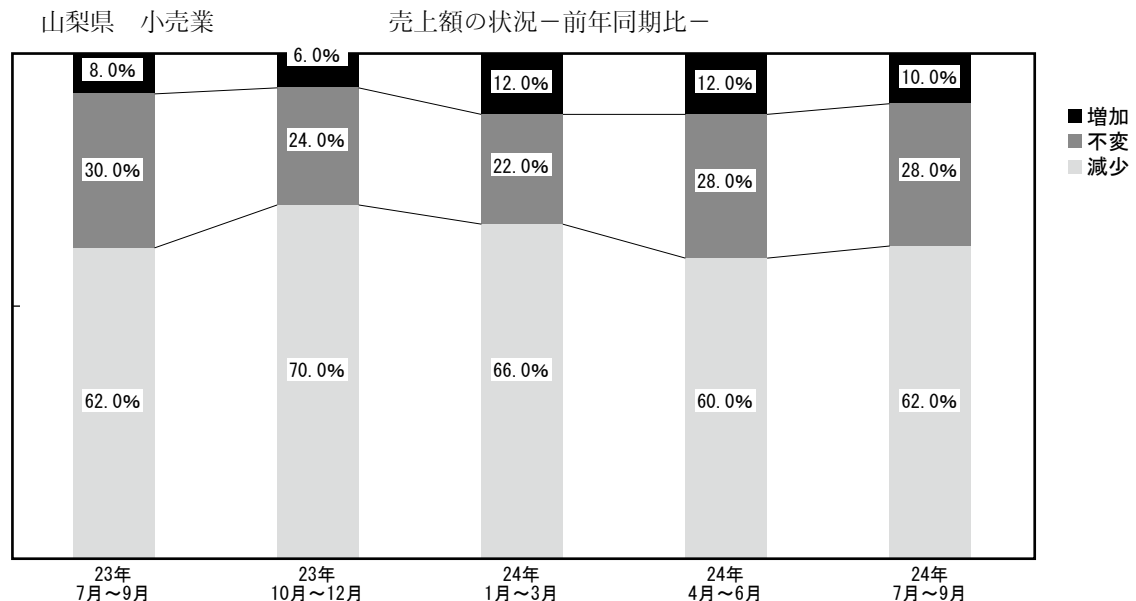
「売上額」D I は前期マイナス 48.0 であったが、今期は 4 ポイント悪化のマイナス 52.0 となった。来期
の見通しについては、一段の悪化といえる 16 ポイントダウンのマイナス 68.0 である。商品仕入単価 D I は、
前期マイナス 10.0 から 6 ポイント上昇しマイナス 4.0 となった。来期の見通しは、今期と全く同じ D I で
ある。採算 D I は、4 期続けてのマイナス 56.0 である。来期の見通しについては、ほぼ横ばいのマイナス
54.0 である。資金繰り D I も、前期マイナス 38.8 とほとんど変わらないマイナス 36.8 である。来期の見
通しについては、6.1 ポイント悪化のマイナス 42.9 である。



2. 主な項目で見る業況

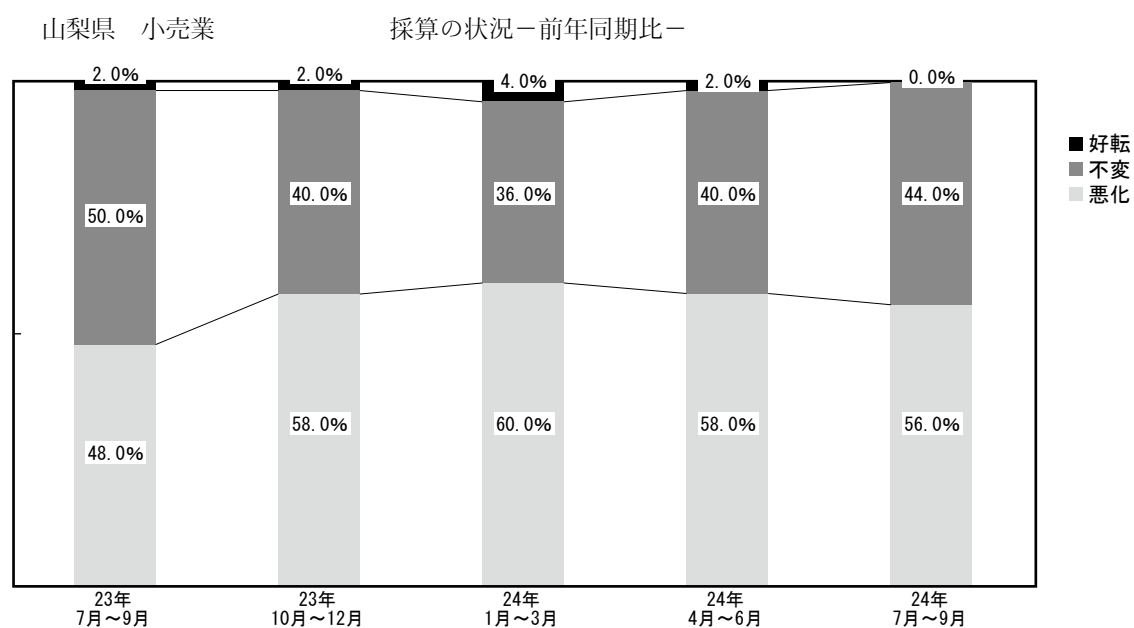
(1) 売上額

下図は、ここ 1 年間余りの「売上額」状況の推移を示したものであるが、今期の売上額 D I マイナス
52.0 の中身を分析してみると次のとおりである。「増加」と答えた企業は、前期 6 社 12.0% から 1 社減り
10.0% であった。「不変」企業は、前期 14 社の 28.0% と変わらなかった。「減少」企業は、前期 30 社の
60.0% から 1 社増えて 62.0% であった。



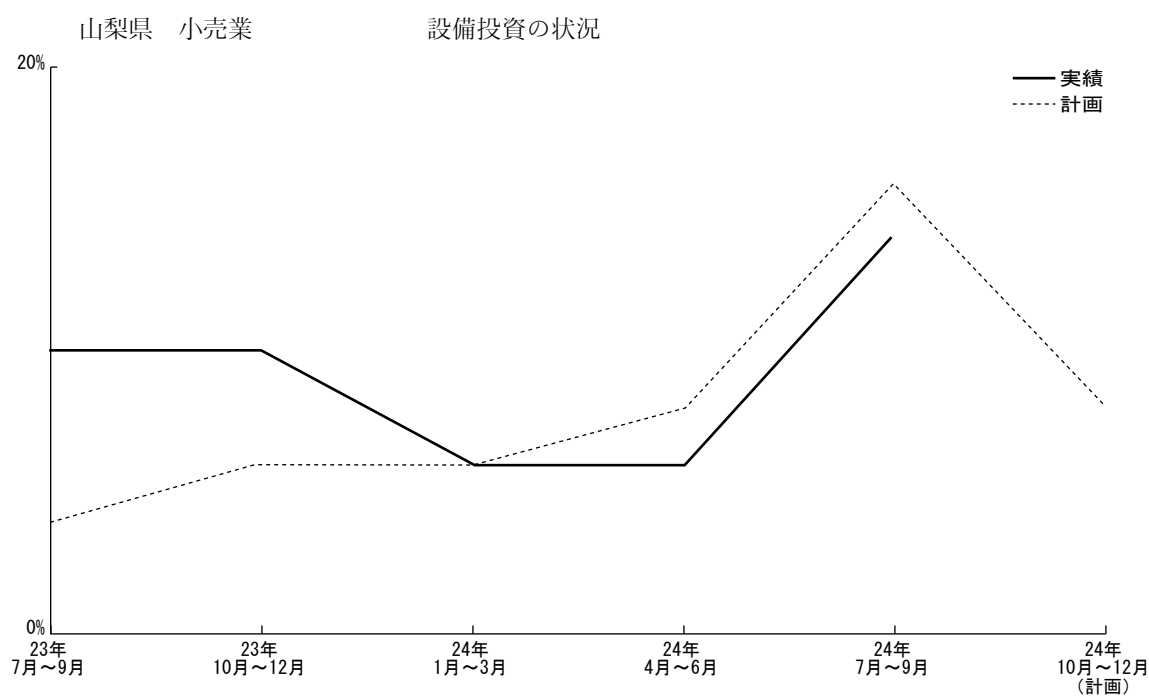
(2) 採 算

下図も、この1年間余りの「採算」状況の推移を示したものである。今期の採算D I マイナス 56.0 の内訳をみると、「好転」が前期1社のみの2.0%から0社の0.0%に、「不変」は前期20社の40.0%から2社増えて44.0%、「悪化」は前期29社の58.0%から1社減の56.0%にわずかに変化した。



(3) 設備投資

小売業の今期における「設備投資」状況をみると、前期3社から7社へと大きく増えた。その内容は「付帯施設」が3件で最も多く、続いて「車両・運搬具」が2件、「店舗」「OA機器」「その他」が1件ずつであった。来期に設備投資を計画している企業は4社に減り、「販売設備」「OA機器」が各1件、「その他」が3件である。

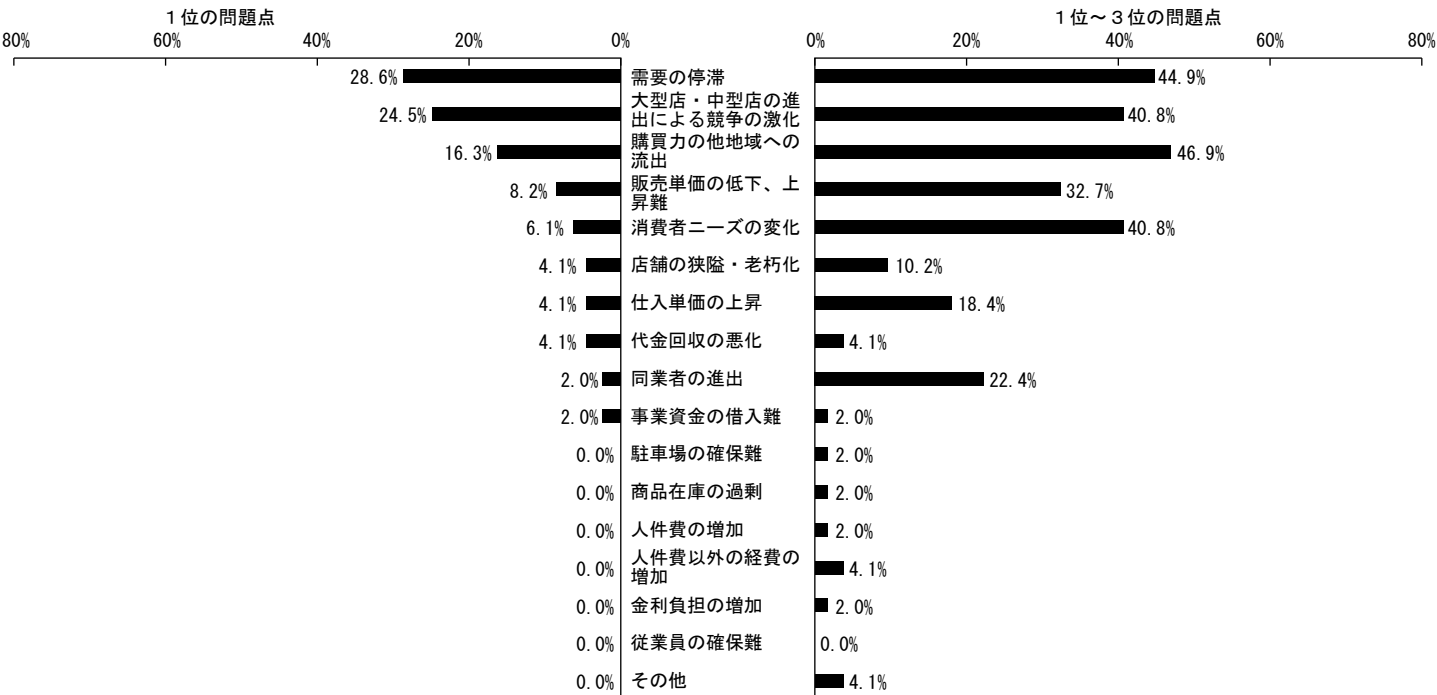


(4) 経営上の問題点

「一位」に挙げてもらったものから見ていくと、「需要の停滞」が2期ぶりに首位に返り咲いて、前期6社の12.5%から14社と再び増えて28.6%であった。2番目は、トップより2社少ない24.5%の「大型店・中型店の進出による競争の激化」である。ちなみに前期は13社の27.1%でトップであった。3番目は「購買力の他地域への流出」で、前期11社の22.9%から8社に減って16.3%であった。その他の答えは、多くて4社が答えるに止まり1桁台の割合であった。

次に「一位～三位」に挙げた答えをみると、こちらは前期に引き続き「購買力の他地域への流出」がトップで23社が答え46.9%であった。ちなみに前期は25社が答えている。続いて、トップより1社少ない「需要の停滞」で、前期より3社増えて44.9%であった。3番目は、「大型店・中型店の進出による競争の激化」と「消費者ニーズの変化」でそれぞれ20社が挙げて40.8%であった。さらに、「販売単価の低下、上昇難」が16社の32.7%、「同業者の進出」が11社の22.4%、「仕入単価の上昇」が9社の18.4%と続く。

山梨県 小売業 経営上の問題点の状況（一位と一位～三位）



(5) 回答企業の内訳

業種別

業 種	企業数	構成比(%)
織物・衣服・身の回り品小売業	10	20.0
飲食物品小売業	13	26.0
自動車・自転車小売業	4	8.0
家具・建具・じゅう器小売業	7	14.0
その他小売業	16	32.0
合 計	50	100.0

売場面積別

売 場 面 積	企業数	構成比(%)
50㎡未満	24	48.0
50㎡～100㎡未満	19	38.0
100㎡～200㎡未満	5	10.0
200㎡～500㎡未満	1	2.0
500㎡～1000㎡未満	1	2.0
合 計	50	100.0

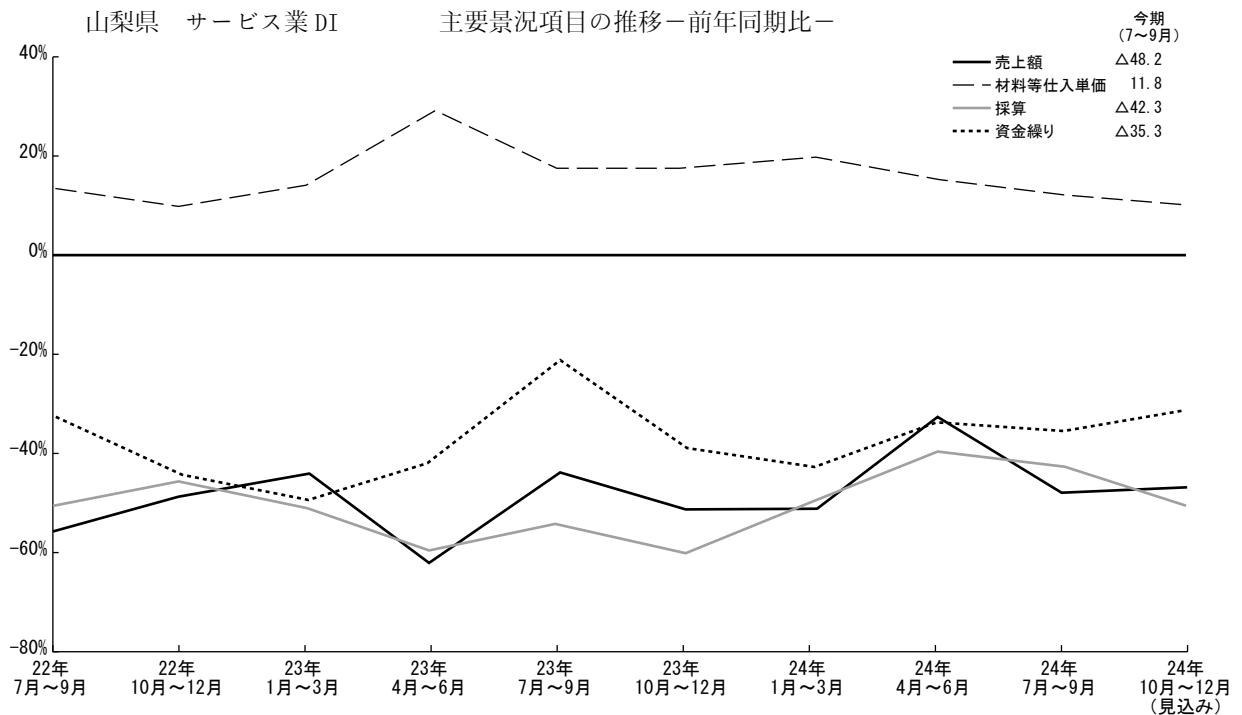
従業員規模別

従業員数	雇 用 形 態		臨時等含む	
	企業数	構成比(%)	企業数	構成比(%)
2人以下	43	86.0	39	78.0
3人～5人以下	7	14.0	8	16.0
6人～10人以下	0	0.0	2	4.0
21人以上	0	0.0	1	2.0
合 計	50	100.0	50	100.0

5. サービス業の動向

1. 景況概観

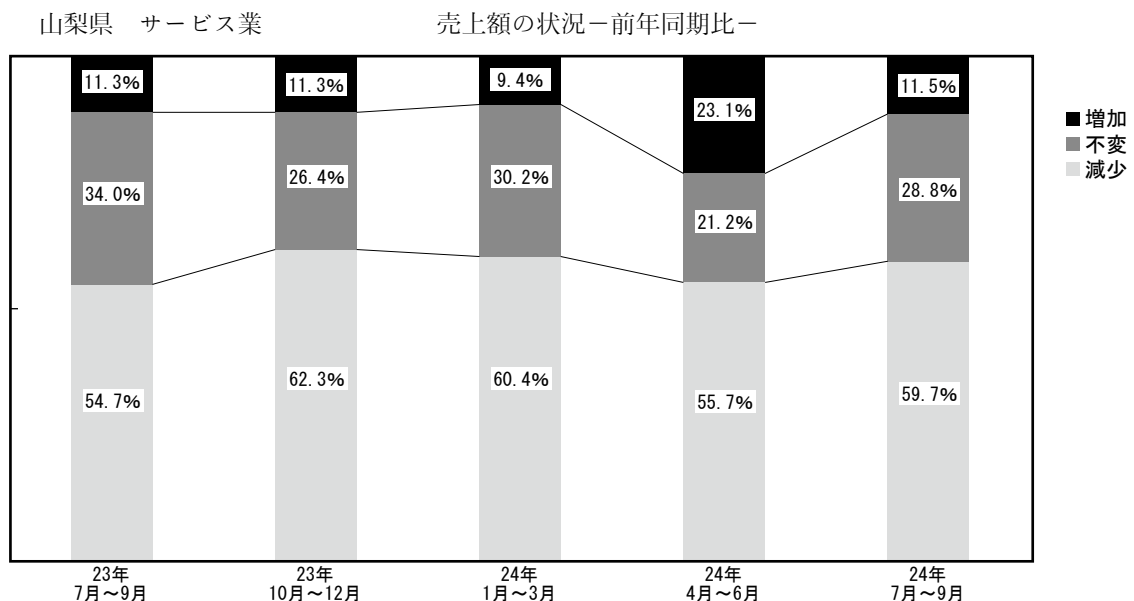
サービス業における売上額D Iは、前期マイナス 32.6 であったが、今期はマイナス 48.2 と 15.6 ポイント悪化した。来期の見通しについては、横ばいのマイナス 47.1 である。材料等仕入単価D Iは、前期 15.7 から幾分落ち着いての 11.8 であった。来期の見通しは、さらに僅かながらの低下の 9.8 と前期における見通しと変わらない。採算D Iは、前期マイナス 39.2 から 3 ポイント程度の悪化のマイナス 42.3 であった。来期の見通しについては、全体の半数が「低下」と答えてのマイナス 50.0 である。資金繰りD Iも、前期マイナス 34.0 から僅かな悪化のマイナス 35.3 になった。来期の見通しは、いくらかの改善のマイナス 31.4 である。



2. 主な項目で見る業況

(1) 売上額

この1年間余りの「売上額」の推移状況から、当期売上額D I マイナス 48.2 の分析をすると「増加」が前期 12 社の 23.1% から半数の 6 社に減り 11.5%、「不変」は前期 11 社の 21.2% から 15 社に増え 28.8% に、「減少」は前期 29 社の 55.7% から 2 社増えて 59.7 になった。

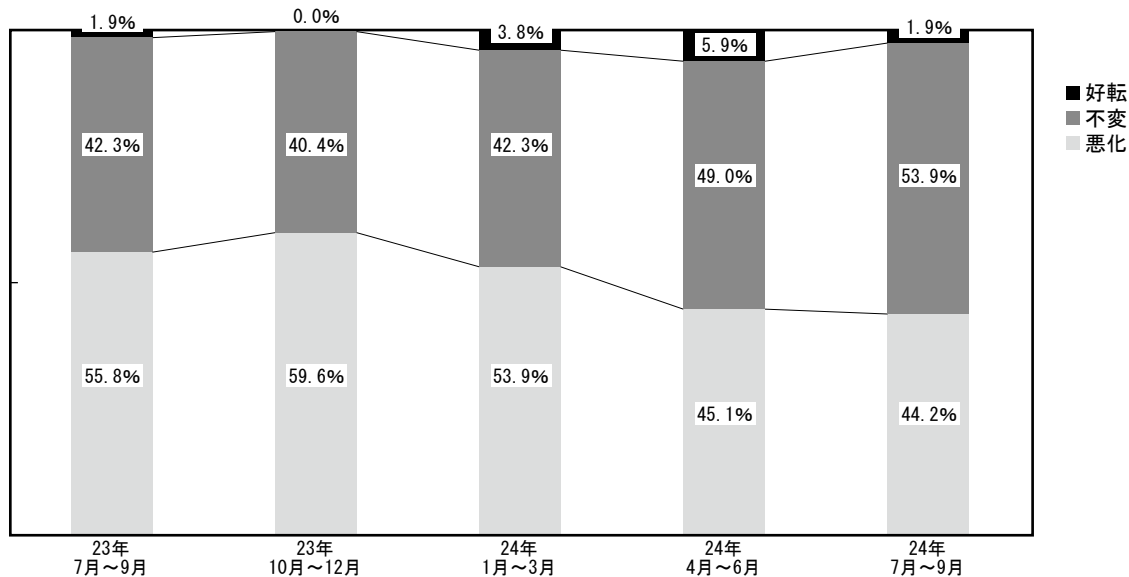


(2) 採 算

今期採算D I マイナス 42.3 の内訳は、「好転」が前期 3 社の 5.9% から 1 社のみの 1.9% となった。「不変」は前期 25 社の 49.0% から 28 社と半数を超えて 53.9% に、「悪化」は前期 23 社と変わらなかったが、サービス業での回答企業数が 1 社増えたことから 45.1% から 44.2% となった。

山梨県 サービス業

採算の状況－前年同期比－

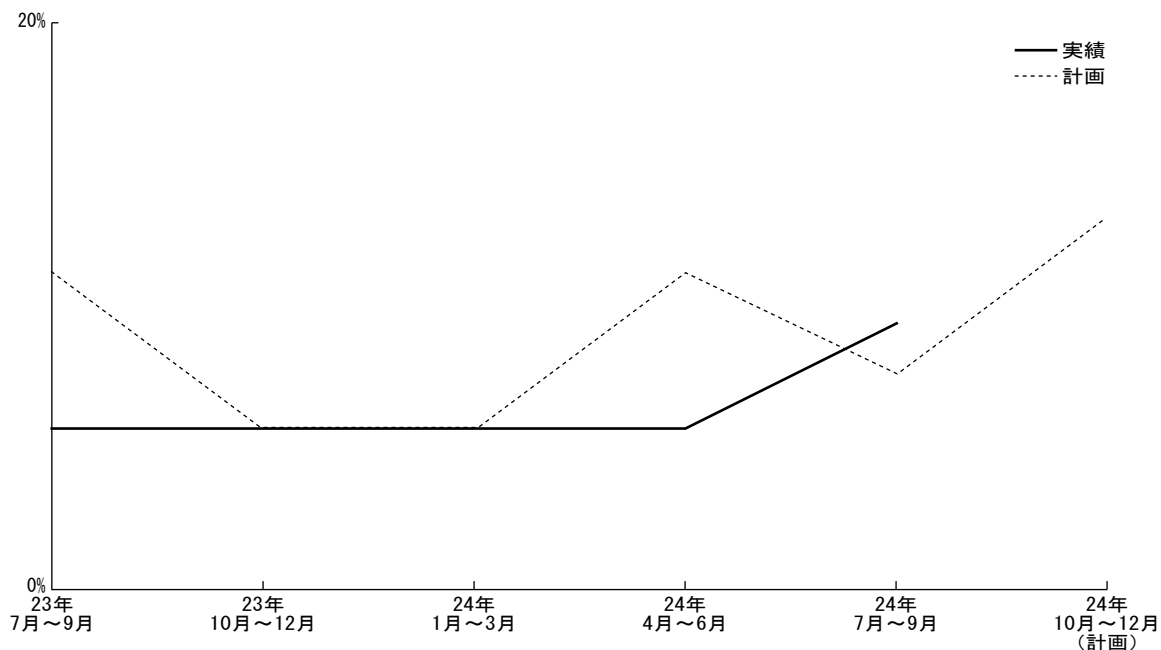


(3) 設備投資

サービス業で「設備投資」を行った企業は、4期続けて3社であったが今期は5社に増えた。その内容は「建物」が3件、「サービス」が2件、「車両・運搬具」と「その他」が各1件であった。前期における今期の計画が4社であったので1社多かった。来期の計画については、2社増の7社であり、近年にない多さである。その内容は、「建物」が3件、「OA機器」と「その他」が各2件、「土地」「サービス」「車両・運搬具」「付帯施設」がそれぞれ1件である。

山梨県 サービス業

設備投資の状況

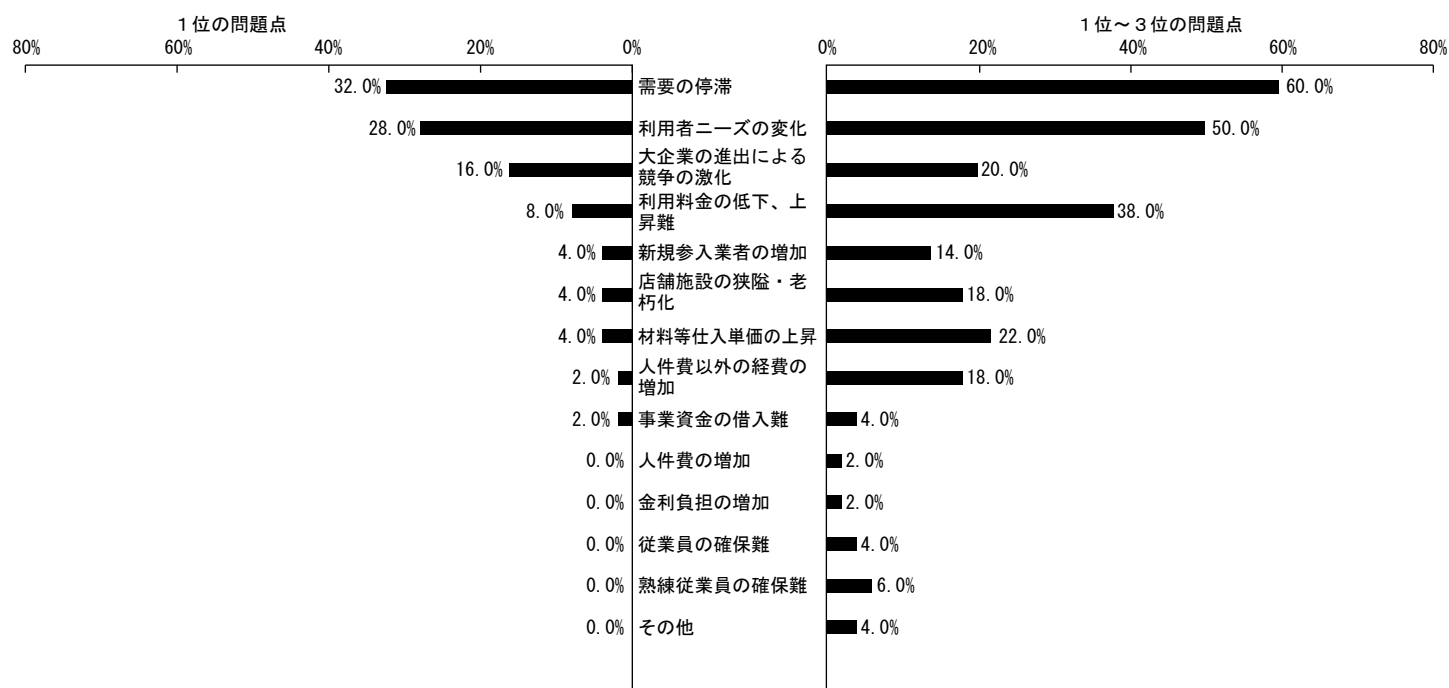


(4) 経営上の問題点

サービス業の「経営上の問題点」において、「一位」に挙げた項目の中で最も多い回答は、前期 13 社の 27.1% から 16 社 32.0% に増加した「需要の停滞」で、相変らず不動の首位である。続いて、こちらも不動の位置に定着した「利用者ニーズの変化」で前期 10 社の 20.8% から 14 社に増え 28.0% であった。3 番目も、前期と変わらず「大企業の進出による競争の激化」で、前期 9 社の 18.7% から 1 社減の 16.0% という結果である。その他の回答は、「利用料金の低下、上昇難」を 4 社が回答し、あとは 2 社以下である。

次に、「一～三位」に挙げたものを見ると、こちらも「需要の停滞」が最も多く、前期より 3 社増え 30 社の 60.0% であった。次に多いのは、やはり「利用者ニーズの変化」で、前期 21 社の 43.7% から回答の半数 50% である 25 社が挙げた。続いて「利用料金の低下、上昇難」で前期 19 社と同数の 38.0% である。これら 3 回答が抜きん出て多い。さらに「材料等仕入単価の上昇」が 11 社の 22.0%、「大企業の進出による競争の激化」が 10 社の 20.0%、「新規参入業者の増加」が 7 社の 14.0% と続いている。

山梨県 サービス業 経営上の問題点の状況（一位と一位～三位）



(5) 回答企業の内訳

業種別

業 種	企業数	構成比(%)
一般飲食店	13	24.5
宿泊業	8	15.1
自動車整備業	7	13.2
洗濯・理美容業	19	35.8
その他のサービス業	6	11.3
合 計	53	100.0

従業員規模別

従業員数 \ 雇用形態	常 雇 い		臨時等含む	
	企業数	構成比(%)	企業数	構成比(%)
2 人以下	42	79.2	37	69.8
3 人～5 人以下	5	9.4	9	17.0
6 人～10 人以下	5	9.4	5	9.4
11 人～20 人以下	1	1.9	1	1.9
21 人以上	0	0.0	1	1.9
合 計	53	100.0	53	100.0